

【磯焼け対策について】

D：日頃の取り組みについては、シイラ漁を営みながら（香南市夜須町）手結地区で磯焼けの対策として、藻場（もば）の再生のために磯魚やウニの除去などをしながら、ナガレコやエビ、アワビが採れるようになればいいと取り組んでいます。

地域の課題では、水揚げが下がる一方で、油は高くなり、漁業経営はかなり厳しいと思っています。

今後の取り組みについて、魚の棲み家となる藻場が少しでも復活して、小さいイセエビやアワビが増えればいいと思っています。そして豊かな海を取り戻し、一人でも多く後継者が漁師をやろうという気持ちになってくれたらいいと思います。

知事：藻場の話ですけど、ウニの除去とか、自らも潜ってやっていただいているんですよね。本当にお世話になりまして、ありがとうございます。とにかく藻場がしっかりあったら漁業資源もできるし、もっと言えば近いところで魚が捕れるんで、高齢化が進んでもできるということで、我々も藻場の造成ということをやっているんですけど、なかなか簡単なことではないですよ。ウニが原因のものはウニを捕っていく対応が必要だと思いますが、他にもいろんな原因という場合もあると思います。そちらの地区では、ウニの除去とかで随分効果が見られたと伺いましたけど、そういう感じですか。

D：そうですね、少しテングサとかナガレコが復活をするとか、成果は多少なり出てきていますが、少し時間、日にちを空けると、また同じように数が増えていますので、100%除去していくのは、かなり苦労かと思っています。

知事：産振計画に取り組むうえで、水産業を含め一次産業というのを中核にドンと据えて、その関連産業をいかに伸ばしていくかということが高知県の進むべき道だと思っています。例えば、高知県はいろいろと食べ物おいしいところと言ってもらったり、観光なんかにもいい影響を及ぼしていただいています。水産業のお陰だと思っていますから、もっとやらないといけないんですが、おっしゃるようにそもそも魚価は低迷するわ、水揚げが減少するわ、加えて燃油は高騰するというので、本当に厳しい状況にあることは確かだと思います。

藻場の造成というのも、その対応策の一つで、なかなか簡単ではないですが、毎年ウニの除去活動について、実施箇所と除去面積、対象として取り組む場所というのは増やして行ってますし、今後も産業振興計画の中で産地の造成として、しっかり取り組みを進めていきたいと思っています。

今後加えて、水産の関係でも、是非、地産外商も徹底して進めていきたいと思っております。捕るということからいけば、藻場の造成とともに、黒潮町のほうでは活餌のいけすを始めて、それで黒潮町での水揚げ量をできるだけ増やしていこうという取り組みを始

めたり、黒潮牧場（土佐湾に設置した浮漁礁）の数を増やしたり、マグロとかカツオについて資源管理のための規制も訴えていこうと水産庁にも行ったりしています。加えてシイラの関係でも、地域で加工して売っていく取り組み、前処理加工から、さらには最終品として加工していくような取り組みを進めています。

さらには、外商ということであれば、大阪とか名古屋の市場関係者の人に高知へ来てもらって、高知の魚を知ってもらって、できるだけ取り扱いを増やしてもらうような取り組みや、「まるごと高知」でカツオフェアなどを開催したり、いろんな形で地産から外商まで徹底して今後取り組みを進めていきたいと思います。

若干、環境は厳しいですけど、高知県にとっては本当に大事な産業で、何と言っても一番中核となる産業だと思っています。